

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110510476		
法人名	医療法人 中山会		
事業所名	グループホーム春桜 1Fユニット		
所在地	札幌市厚別区厚別東3条6丁目1-5		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	平成28年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周囲は住宅地にありながらも、周囲を自然豊かな環境に恵まれています。ホーム前の花畑や玄関周りにも季節の花をたやさないようにし、入居者様やご家族・近隣の方々に楽しんでいただけるよう工夫しています。ミニ菜園で野菜を育て、散歩の時に入居者様と収穫し味わっています。行事等では地域ボランティアとの交流や演芸を楽しんでいます。隣接するパウロ病院の行事にも積極的に参加し、夏祭りや花火大会・イモほり、のど自慢大会等ご家族やボランティアの方々や職員と一緒に楽しんでいます。入居者様やご家族の希望や要望をできる限り取り入れ、外出や外泊の支援をしています。2階通路でパウロ病院とつながっており、病院受診等がスムーズであることから、体調の急変時や入院などの支援体制が整っており、ご家族の安心に繋がっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0110510476-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年10月26日

当事業所は3ユニットで、バス停から3分程の住宅街に位置し、緑の五角屋根が印象的な3階建ての建物である。玄関前には花壇と畑を作り、パラソルやベンチが設置されており、天気の良い日には利用者が水やりしながらトマトをつまむなど、戸外に積極的に出る楽しみを工夫している。職員は、グループホーム系列の理念を基に、「春桜」独自の目標も毎年掲げ、利用者に寄り添った、利用者本位の個別ケアに取り組んでいる。運営母体では、年間研修計画を立て、職員のスキル向上に努めている。事業所でも定期的に内部研修を実施し、職員間で情報の共有を図りながら利用者へのケアサービスの向上に努めている。地域交流としては、町内会の演芸大会に利用者が見物したり、運営母体である「中山会」主催の夏祭りや花火大会に、毎年多くの地域住民の参加を頂きながら利用者は交流を楽しんでいる。家族との交流も3か月毎に発行する「春桜便り」で事業所の運営状況を報告したり、来訪時には「暮らしの様子シート」を見てもらい、利用者の日々の生活を知って頂くなど、ここで暮らし続けることへの安心と信頼に繋げている。更に、運営母体のパウロ病院が併設されている事で、医療連携体制が整い、ホーム長が看護師であることから、利用者の日々の健康管理も行き届き、より一層の安心感に繋がっている。職員は良好なチームケアの下に、利用者の安らぎのある暮らしを支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、管理者と職員はその理念を共有し日々のケアの実践に繋がっています。	グループホーム共通理念を基本として、「春桜」独自の目標を毎年掲げ、地域密着型サービスの実現に取り組んでいる。職員は、カンファレンスで話し合い、共有を図りながら、理念の具現化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の中で地域の現状を知り、あいさつや行事等の中で交流するように努力しています。	町内会には加入していないが、併設している運営法人の病院で毎年開催する夏祭りや花火大会には多くの地域住民が参加し、利用者との交流を楽しんでいる。町内会主催の演芸大会に利用者が招かれ見物している。事業所の行事には演芸や歌などのボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の方々の見学会を行い、認知症の人の理解や支援の方法を理解してもらうようつとめています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容をカンファレンスで報告し、サービス向上に活かすよう努めています。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催している。高齢者の食事・ジェネリック医薬品について・インフルエンザとノロウイルスについてなど議題を提示し話し合われサービスに活かしている。行政職員を始め、民生委員、消防団員の参加を得ているが、町内会員と家族の参加が得られていない。	地域の理解と支援を得るためには地域住民の協力が欠かせないので、積極的に参加を呼びかける事を期待する。また、家族が参加し易い環境作り(行事と合わせるなど)や魅力ある議題の提供などを検討し、多くの参加を促す取り組みに期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市への届け出には直接市役所を訪ね、事業所の実績やケアサービスの取り組みをつたえ、協力関係を築くよう取り組んでいます。	ホーム長は、個別の案件について介護保険課や生活支援課の窓口へ直接出向き、解決に向けて相談している。また、市や区の管理者連絡会及びグループホーム連絡会に参加し、情報交換や交流を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯の施錠と転落防止の非常階段口のドアの施錠以外は常にオープンにしています。身体拘束をしないケアに取り組んでいます。また、職員は毎朝申し送り前に「虐待・身体抑制、不適切行為等田王マニュアル」を唱和しています。	独自の身体拘束廃止マニュアルを整備している。運営法人は研修の年間計画を立てており、身体拘束の弊害について学ぶ機会がある。外部研修にも参加して、得た情報を内部研修を通じて職員間で共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は夜間施錠しているが、閉塞感の無い暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等についての研修を受けた者がカンファレンスで発表し、資料はいつでも見ることができるようにし、学んでいます。また、利用者の日々の言動や身体チェックをおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修があれば参加し、理解を得るように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、契約に際しては利用者や家族の理解や納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で利用者や家族の代表者から意見を受けています。	家族の来訪時やお電話の際には、利用者の状況を説明し、意見や要望などを聞き取っている。特に来訪時には、利用者個々の「暮らしの様子シート」を見て頂き、面会していない日々の様子を知って頂いている。「春桜便り」を年4回発行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやリーダー会議で出された意見や提案を聞き、反映させています。	ホーム長は、月2回のカンファレンスや月1回のリーダー会議、年1回の個人面談にて意見や提案など職員の声に耳を傾け、運営に活かせる様に取り組み、働く意欲の向上や質の確保に努めている。職員は各役割を担い、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムを導入し、やりがいや向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保するよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域のグループホーム管理者会議、ケアマネージャーの会議、勉強会に参加し、ネットワーク作りの取り組みをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に必ずホームの見学をして頂き不安や疑問な事にこたえて、要望を聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階で本人や家族の話を十分に聞き、質問当には丁寧に答えています。また、ご家族と一緒に利用者様を支えていけるような協力図案に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望をよく聞き、今、必要としている支援やサービス利用の対応を都度行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来ない事や困っていることは援助し、時には手伝ってもらったり教えてもらいながらケアをしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と面会や電話などで常に連携を取り本人の喜びや望みを叶えるように一緒に支えて援助できるような関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意見を尊重し、馴染みの人や友人の訪問や外出は自由にして頂き関係が途切れないよう支援しています。	入居前のご近所の方や共通の趣味のお仲間などの訪問を受けている。友人との旅行や年末年始の外泊、買い物、外食など、家族の協力を得ながら馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が穏やかに楽しく生活できるように席の配置を工夫したりスムーズに会話ができるようさりげなく支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先や施設へのお見舞いや訪問を行い、時には相談や支援に努めています。又、ご家族からの相談にも努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話せる方からは希望を聞き、困難な場合には家族からの情報や日々の暮らしぶりやアセスメントをもとに意向の把握に努めています。	思いや意向を言葉で汲み取ることが難しい場合も、利用者との日々の関わりの中でさり気ない会話や表情、仕草から思いの把握に努めている。センター方式のアセスメントシートは3ヵ月毎に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話をもとに、センター方式のアセスメントを行い把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやカンファレンスでの情報・記録をもとに、アセスメントしながら現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前に本人が生活していた関係者と話し合い、その中から出た意見やアイデアを反映し、アセスメントして意見を出し合い、スタッフ全員で話し合っケアプランを作成しています。	利用者個々に担当職員を配置している。担当職員は毎月行われるモニタリングを基に暫定プランを作成し、カンファレンスで話し合い、職員の気付きや意見を取り入れて介護計画を作成している。本人、家族の要望を確認して、3ヵ月毎に見直されている。緊急時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は細かく記入し、特変や注意することは、別用紙にも記入し、周知してスタッフ全員が利用者の情報について共有しており、それをプラン作成やケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人でサービスを希望する方には外部からの定期的な支援やサービスを受けられるよう柔軟に取り入れ支援できるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事や、情報誌の活用やボランティアの協力等本人が安全で豊かに生活を楽しむことができるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望を大切に、適切な医療を得られるよう支援しています。又、付き添いや情報提供なども支援しています。	運営法人であるパウロ病院とは渡り廊下で繋がっており、協力医療機関として連携が取れている。月1度の受診には、看護師であるホーム長が対応している。他科の受診は家族対応を基本としている。受診内容は「特変用紙」に記録し、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が看護師であり、受診に付き添っています。職員は日常的に利用者の健康状態を観察したり、報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に病院関係者との情報交換をし、相談に努めている。入院先の病院等のカンファレンスに参加又は、訪問をし、利用者や家族が安心できる体制を作っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談時に事業所のできる事や支援の状態を説明しています。入所後もケアプラン説明時や訪問時にご家族と話し合い、本人の意思が尊重できる方針を共有し、関係者と共に支援に取り組んでいます。	「医療連携体制に関する指針」を作成し、入居時に本人、家族に説明し同意を得ている。経口摂取が難しくなった場合には病院に移行し支援する方針を家族に説明している。母体病院との医療連携体制は家族の安心に繋げている。ホーム長は、ターミナルケアへの対応やその準備に向けて検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに急変時にはどう動けばよいかを常にシミュレーションし、確認して業務にあたっています。職員は応急手当や初期対応の研修を受け、実践力を身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、利用者にも参加してもらい実行し反省点を話し合っています。運営推進会議の中で、地域との協力体制を築いています。	今年度は消防団の協力を得て、6月に夜間想定で避難訓練を実施している。次回は11月を予定している。消防用設備の点検を定期的に行い、非常用備蓄品も確保している。近隣に居住の職員家族の協力は得られているが、地域住民の参加は得られていない。	職員だけの誘導の限界を確認し、地域住民の参加協力を得られる様に、町内会など幅広く呼び掛けることを期待する。ホーム長は、火災訓練と自然災害訓練合わせて年4回実施することを検討しているので期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの認知状態をスタッフが共有し、トイレ誘導や入浴時には特に注意をし、言葉がけや対応を行っています。	職員は、誇りやプライバシーを損ねない様に、目立たずさり気ない言葉かけや対応に配慮している。名前は名字で「さん」付けで対応している。利用者の情報は事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を日ごろの会話などを通して聞き取るようにし、選択できることを用意し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて楽しみや希望を理解し、その人らしく一日を過ごせるよう、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からのなじみや、好みの服装や身だしなみの情報を知り、その人らしさができるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事には一人ひとりの好みのメニューを入れるようにしています。利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしています。又、希望される方は外食で楽しめることもあります。	献立、食材、レシピは外注であるが、利用者の嗜好を考慮して作成している。誕生日は利用者の好物やケーキでお祝いしている。季節行事は寿司や仕出し料理など工夫し、個別対応で外食も楽しんでいる。食事の準備も利用者の力量に合わせて行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューはバランスを考えながら作っています。一人ひとりの食事量、水分量は常にチェックを行い、食べやすい工夫をして一定量確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、磨き残しのチェックも行っています。歯間ブラシの使用なども個別に声をかけています。特変があればすぐに歯科受診しています。定期的な歯科受診も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に応じて布パンツ・紙パンツ・パットなどに使い分けており、排泄チェック表の記録を行い、パターンを把握し、個別の促しや、声掛けなど、自立に向けた支援をしています。	三割以上の利用者は布パンツで過ごしており、トイレでの自立した排泄を基本とした支援が行われている。夜間のみオムツ対応の利用者もいるが、衛生用品の使用については十分話し合い検討している。失敗した場合でも、羞恥心や不安を軽減する配慮をしながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維食物の摂取を積極的に行い、散歩や体操などの運動をしています。排便チェックを行い便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度化している入居者の入浴は、安全を重視し、介護者が2人体制で介助しています。又、季節のゆず湯や温泉の日を作り、楽しんで頂いています。	週2回を目安に入浴支援を行っている。「温泉の日」と称し週1回、併設の母体病院から温泉の源湯を貰い温泉気分を楽しんでいる。利用者の希望に応じて同性介助支援や二人介助支援など取り入れ、安全、安心に向けた配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内での温度・湿度の調節や寝具の調節を行い、安眠できるようにしています。日中はそれぞれ気に入った場所で休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの使用している薬の内容が書かれている薬ファイルがあり、いつでもすぐ見ることが出来、スタッフは把握しています。症状の変化の観察に注意を払っています。又、誤薬防止マニュアルを読んで周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活や会話などから、ご本人が張りのある生活を送れるよう工夫しています。センター方式のアセスメントから一人一人の生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩はその日の気分に沿って出かけるよう支援しています。ご家族の協力を得て外出や外泊をおこなっています。又、ご家族もお誘いして、季節ごとに紅葉狩りや花見に出かけています。	利用者の希望を聞きながら行事担当者が企画し、花見や紅葉狩り、工場見学、買い物ツアーなどに家族の参加も得て出かけている。併設のデイサービスの運転手付き大型車が活用できるので、利用者全員で楽しむことが出来ている。日常的にも玄関前の花壇の手入れや、散歩、買い物など外気に触れ、気分転換に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、お金を所持したり、使えるようにしています。買い物希望時は職員が同行し支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやり取りができるよう支援しています。自分で電話ができない人には介助しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、安心と安全に注意し、季節ごとにしつらえや飾りを替えて、居心地の良い場所づくりの工夫をしています。季節の花や行事の写真等を飾り、楽しんで頂いています。	共有空間はゆったりとしていて、閉塞感が無く、清掃も行き届き清潔である。パブリックスペースには、ソファやテーブル、ベンチなどが配置され、独りや気の合った利用者同士がそれぞれに寛げる空間となっている。利用者の趣味の写真が壁や棚に飾られて心を和ませている。マガジンラックには沢山の雑誌が用意されており、利用者の感覚や活動意欲を持たせるなど、快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置を工夫し、一人ひとりがいつでもゆったりとくつろげる居場所づくりの工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや趣味のものを居室戸口のケースに入れて頂いたり、馴染の物を居室内に配置して、居心地良く過ごせる工夫をしています。	居室にはクローゼットが設置され、片づけ易く整理整頓に適している。居室入口に飾りケースが備えてあり、利用者のお気に入りの品や人形などを入れて個性を表している。室内には、利用者の歴史を感じる三面鏡や筆筒などが収められ、趣味の品が飾られて、居心地の良い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は見通しの良い作りになっています。クッションフロアーや長い手すりの設置をしており、足に優しく伝え歩きのしやすい工夫をしています。		